

# 稼働率アップのレク・機能訓練・記録 通所介護&リハ

隔月刊誌 会員制・定期刊行物

2010 7・8月号

連載

いきいきあーとレクリエーション  
プログラム

成功体験に学ぶ! 認知症ケアの困難事例&  
通所サービス計画



知っ得! らくらく!  
移乗・移動介助のテクニック

高齢者の身体機能と  
生活を意識したケアの視点

転倒予防・QOL向上に向けた  
高齢者の睡眠障害改善

利用者の「楽しみ」づくりと  
「また来たい」と思う

# サービス提供の 工夫

日総研

通所サービスの  
質を高める

ちょっとイ話



1968年4月生まれ。東北福祉大学社会福祉学部卒業。

介護専門学校の助教員を経て、特別養護老人ホーム・在宅介護支援センターの相談員を歴任し、デイサービス・グループホームの立ち上げを多数プロデュースする。その後、通所介護・居宅介護支援事業所の管理者を務める傍ら、「福祉と介護研究所」を設立。現在は独立し「福祉と介護研究所」の代表を務めている。介護士・相談員スキルアップ研修など多数の講演活動講師を行っている。主な著書に「施設職員のための介護記録の書き方」(雲母書房)。

社会福祉士/介護支援専門員/福祉住環境コーディネーター2級  
福祉と介護研究所ホームページ <http://www.fukuken.org>

## 「伝える」「伝わる」を考えよう

「インフォームド・コンセント(説明と同意)」「利用者とのコミュニケーション」は、介護場面でよく耳にする言葉です。専門職である介護スタッフには聞き慣れた言葉で、特に意識する用語ではないかもしれません。

また、人というのは、特別な事柄でも日常的に習慣化していけば、いつの間にか無意識に行うことができるような仕組みが体に備わっているのかもしれません。

## \* 「分かっているだろう」の落とし穴

私は、介護記録セミナーの中で「専門用語を多用して記録を書いているいけない、と分かっている介護スタッフさんでも、気づかないうちにそれを書いてしまうものなんです」ということをお話ししています。そして、続けてこんな質問をします。

「咀嚼・嚥下は専門用語だと思う人は手を挙げてください」

残念ながら、誰も手を挙げないこともあります。

「下肢筋力が専門用語だと思う人は？」

という質問をしても、同じような反応になることが多いです。そこで、

「自宅で家族に対して、『咀嚼・嚥下をしっかりと行ってね』と言う人はいますか？」

と質問してみると、笑いが起こります。笑う

ということは、恐らく、「そんなこと家で言うわけじゃないか」ということなのでしょう。

冒頭に戻りますが、介護場面で用いる「コミュニケーション」は、利用者や家族と情報交換を行うための手段です。また、情報が交わされるためには、専門用語を多用せず「分かりやすい、平易な言葉を選ぶ」必要があります。そして、「そんなことは分かっている」と思うところに、「咀嚼・嚥下」や「下肢筋力」のような落とし穴が潜んでいるというわけです。人は、使い慣れてしまうと、無意識にその言葉を使用します…。私自身も然りです。

## \* 介護現場で求められる「伝達」とは？

情報の伝達には、大きく分けて2種類あると言われています。一つは、マスコミュニケーションです。これは、「情報の発信者が受信者を特定せず、一方的に情報を流す」というものです。例えば、テレビ、ラジオといったメディアや新聞、雑誌などの文字媒体がそれに当たります。マスコミュニケーションは、「伝える」ことに意義があり、特に報道機関は、電波や新聞を介して真実を「伝える」ことに尽力しています。

そしてもう一つは、パーソナルコミュニケーションです。これは、「face to face」で行われ

る人間同士の言語的・非言語的コミュニケーションのことであり、「情報の発信者が受信者を特定し、相手を意識して行う意図的な情報のやり取り」と言い換えることができます。

それでは、介護現場で利用者・家族と向き合い、サービスを提供しているスタッフに求められるのは、どちらのコミュニケーションでしょうか。お分かりのとおり、パーソナルコミュニケーションですね。すなわち、介護現場では「伝える」ことではなく、「伝わる」ことが最も大事なのです。

介護のジャンルではありませんが、私は池上彰氏の著書をよく読んでいます。池上氏は以前、NHKの『週刊こどもニュース』という番組で、子どもたちに世界で起こっている時事報道を分かりやすく解説していた、メディアで評判のジャーリストです。彼は、著書の中で次のように言っていました。

「専門用語や物事の複雑な仕組みが分からない子どもに、分かりやすくその意味を『伝える』のは大変なことだ。専門用語をあたかも知っているかのように振る舞っていても、その本質を深く理解していないと、子どもには『伝わらない』」

私はこの言葉を聞き、「なるほど」と感じました。相手に、その本質が「伝わる」ためには、「相手の立場をよく知った上で、慎重に話を進めなければならないのだな」と反省しました。介護の専門職だからこそ、専門知識の本質をよく理解し、噛み砕いて話すことの重要性を感じた今日この頃です。

#### 引用・参考文献

1) 池上彰：わかりやすく〈伝える〉技術，講談社，2009.

## 監査で指摘されやすい 計画書のポイントを徹底解説！

# 時間をかけないテクニック 通所介護計画作成方法

### 事例演習で流れを学習

丸山泰一氏 社会福祉士・介護支援専門員

社会福祉法人池上長寿園 特別養護老人ホーム菟谷 課長  
前・同法人たまがわグループ 在宅課長



福祉現場の生活指導員、ソーシャルワーカーを経て、平成16年より現職。長年、高齢者の在宅支援に携わっている経験から、通所介護サービス現場への理解が深い。平成13年からは早稲田速記医療福祉専門学校の非常勤講師として福祉教育にも携わる。現場に即した講義は分かりやすく、即、実践でき好評である。

## 通所介護計画、ケース記録、モニタリング表、機能訓練計画をいかに効率よく作成するか！

### プログラム

★11147

- |   |   |
|---|---|
| <p><b>1.通所介護計画書の作成の流れ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新規申し込み</li> <li>2) 居宅サービス計画(ケアプラン)の確認</li> <li>3) 通所介護計画書原案の作成</li> <li>4) 通所介護計画書原案、本人・家族の同意</li> <li>5) 通所介護計画書の配布</li> <li>6) 職員への周知</li> </ol> <p><b>2.時間をかけない通所介護計画書・介護予防通所介護計画書の作成</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 時間短縮を図るために             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 居宅サービス計画の活用</li> <li>② 介護メニュー表の作成</li> <li>③ 記録書類の整備</li> </ol> </li> <li>2) 効率化を図るために             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「生活全般の解決すべき課題(ニーズ)」の書き方</li> <li>② 「長期・短期目標」の設定の仕方</li> <li>③ 「援助内容」の立案方法</li> <li>④ 「期間」の設定</li> </ol> </li> <li>3) 効率的な更新・変更の方法</li> </ol> | <p><b>3.支援経過記録作成のポイント</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 評価・引継ぎのしやすい記録方法</li> <li>2) 効率的な記載のポイント</li> </ol> <p><b>4.効果的なカンファレンス・モニタリング・評価の進め方</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ケースカンファレンスの方法</li> <li>2) モニタリングの流れ</li> <li>3) 評価の記入方法</li> </ol> <p><b>5.個別機能訓練計画作成のポイント</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 必要な記載内容</li> <li>2) 通所介護計画書との整合性</li> </ol> <p><b>6.介護支援専門員との連携</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) サービス担当者会議</li> <li>2) 職種の専門性</li> </ol> <p><b>7.事例演習</b><br/>～通所介護計画書・介護予防通所介護計画書作成トレーニング<br/>実際の事例に基づき一連の流れを学ぶ</p> |
|---|---|

**岡山** 10年 7/31 (土)  
10:00～16:00  
福武ジョリービル

**東京** 10年 8/7 (土)  
10:00～16:00  
内神田サニービル

**仙台** 10年 12/4 (土)  
10:00～16:00  
ショーケー本館ビル

参加料 本誌購読者 15,000円  
共に税込 一般 18,000円

誰でもできる効率化のポイントを指導するので、  
計画書作成業務に役立つ。



通所介護計画書の作成に当たっては、現場から「居宅ケアプランとの連動が分からない」「忙しいので時間をかけずに作成したい」といった悩みが聞かれ、思うようにできていないようです。

計画作成で重要なアセスメントの視点や記載方法から、ケース記録、モニタリング表、機能訓練計画書を含めた作成ポイントを解説し、効率化実現に向けてのテクニックを伝授します。